



令和2年3月24日

各位

会社名 株式会社ディー・ディー・エス  
代表者 代表取締役会長 三吉野 健滋  
(東証マザーズ・コード番号 3782)  
問合せ先 経営管理部長 小野寺 光広  
電話番号 052-955-5720  
(URL <http://www.dds.co.jp>)

<マザーズ>投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○ 開催状況

開催日時 2020年3月24日 10:00~11:30  
開催方法 対面による実開催  
開催場所 日本会議室 法研中部 久屋大通店 第1会議室  
(愛知県名古屋市中区丸の内3-7-19 法研中部ビル8階)  
説明会資料名 2019年12月期 決算説明資料

【添付資料】

1. 2019年12月期 決算説明資料

# 2019年12月期～ 決算説明資料

株式会社ディー・ディー・エス

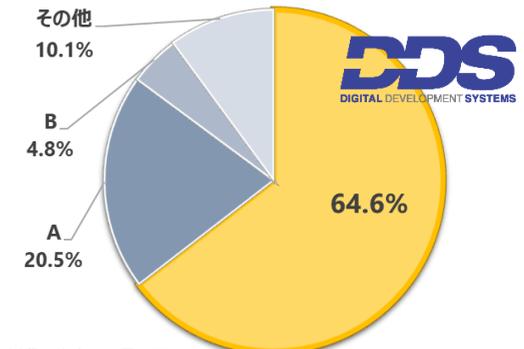


令和2年3月24日 @日本会議室 法研中部 久屋大通店 第1会議室

# 会社概要



会社名	株式会社 ディー・ディー・エス (DDS, Inc.)
資本金	7億6,384万円 (2019年12月31日現在) 東証マザーズ上場
事業内容	セキュリティ機器、ソフトウェアの開発・製造・販売 <ul style="list-style-type: none"><li>名古屋工業大学梅崎研究室など複数の大学と産学連携による技術開発。</li><li>最高レベルの指紋認証技術『ハイブリッド指紋認証方式』で特許を取得。</li></ul>
沿革	1995年：9月 設立 2005年：11月 東京証券取引所マザーズに上場。アジアを中心とした海外での展開 2008年：第6回産学官連携功労者表彰における『科学技術政策担当大臣賞』の受賞 2012年：デロイト トウシュ トーマツ 急成長ランキング『FAST50』受賞 2014年：FIDOアライアンス※1加盟 2017年：デロイト トウシュ トーマツ 急成長ランキング『FAST50』受賞
実績	<ul style="list-style-type: none"><li>指紋認証ソリューションで<b>18年以上</b>の実績</li><li><b>累計95万</b>ライセンスの出荷実績</li><li>指紋認証市場で<b>8年連続出荷台数シェアNo.1</b>※2</li></ul>



※1：2012年7月に設立された生体認証をはじめとしたオンラインにおける安全な認証の世界標準の提唱と啓蒙を行う非営利の標準化団体。

※2：出典：(株)富士キメラ総研 2012～2019 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧 認証デバイス 指紋認証 数量ベース 2011～2018年度実績

出典：富士キメラ総研 『2019ネットワークセキュリティビジネス調査総覧』 (指紋認証数量ベース2019年見込)

# 2019年12月期～ 連結業績ハイライト

バイオ売上は順調であったがアルゴリズム売上の次期持ち越しもあり、営業利益・経常利益は赤字、当期純利益については若干の黒字となった。

## 業績概要

- ・ 売上 : 11.6億 (前年同期比4.2%減)
- ・ 営業利益 : △1.64億 (前年同期0.61億)
- ・ 経常利益 : △2.66億 (前年同期△0.83億)
- ・ 当期純利益 : 0.23億 (前年同期△9.09億)

## 概要

当社の主力事業であるクライアント・サーバーシステムEVEシリーズ・万能認証基盤Themisと指紋認証機器UBFシリーズを中心にしたバイオ事業については、改正個人情報保護法による各府省からのガイドラインに従った官公庁・自治体に加え、社会インフラを支える公的な企業から大規模案件を多数受注し概ね計画通りに推移しました。

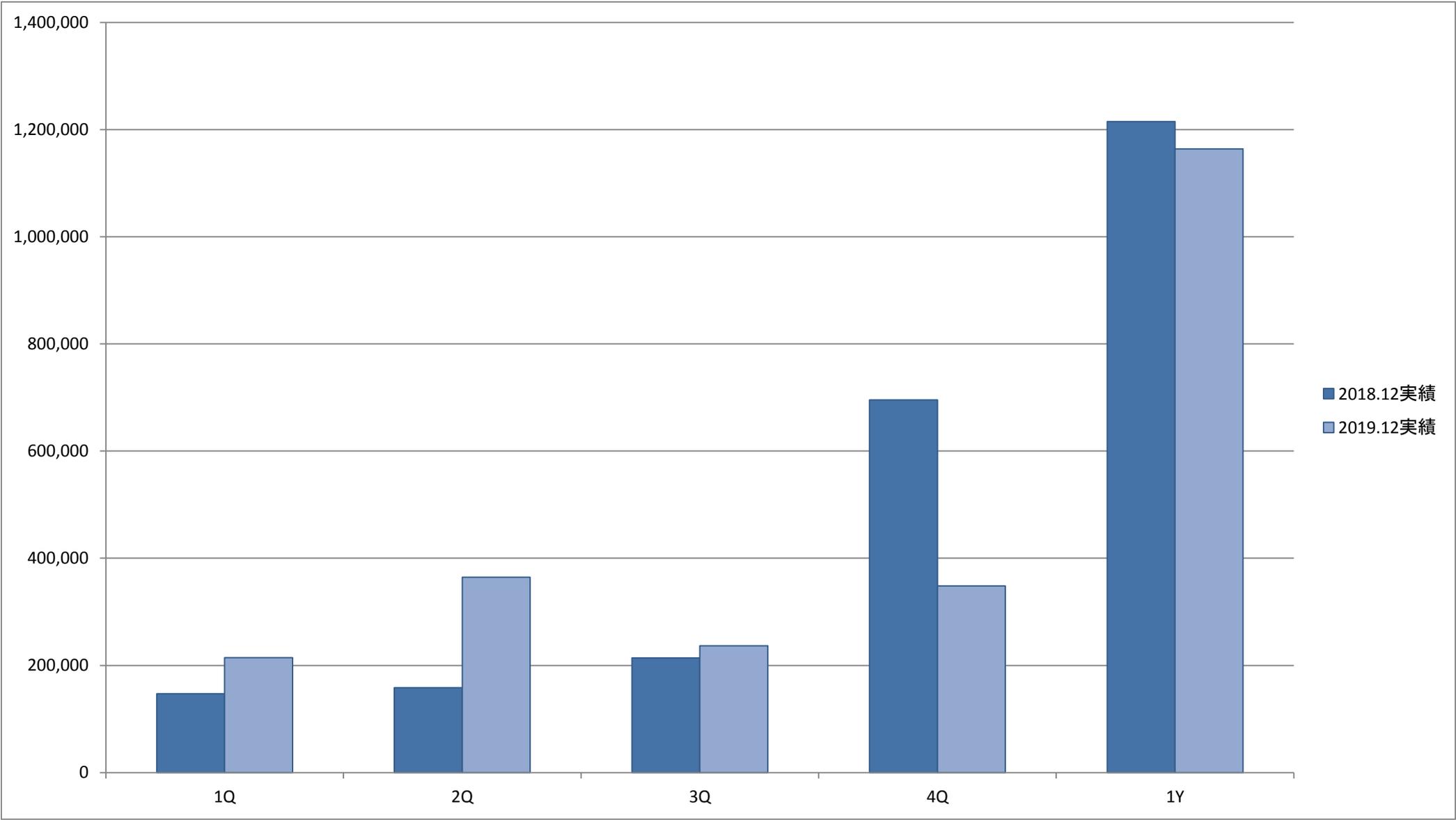
マガタマ・FIDO事業については、iOS版SafariのFIDO2対応の遅れにより普及が遅れましたが来年初頭より急速に普及が予想されております。そのため当連結会計年度は試験導入に留まりましたが、計画からの大きなブレは無く推移しました。さらに、株式会社ランシステムが展開する「セルフ店舗システム」に採用され、人材不足や人件費高騰の中、大きな注目を受け来年度への大きな布石となりました。

アルゴリズム事業については、海外センサーメーカーへのスマートフォンメーカー向けの商談を18年度に受注しました。当連結会計年度は技術革新によるニーズが大きく変化しましたが、それに追随し技術的な課題は解消され、Micrometrics Technologies Pte. Ltd.製「超薄型インディスプレイ光学式指紋センサー」に対応した指紋認証ライブラリをリリースし、機能面・価格面など競業優位性により非常に確度の高い商談を進めて参りました。しかしながら、最終段階まで来ていた受注が先送りになり年度内での受注には至りませんでした。

# 連結売上推移Q比 (単位：千円)

前年12.1億→11.6億  
4.2%減少

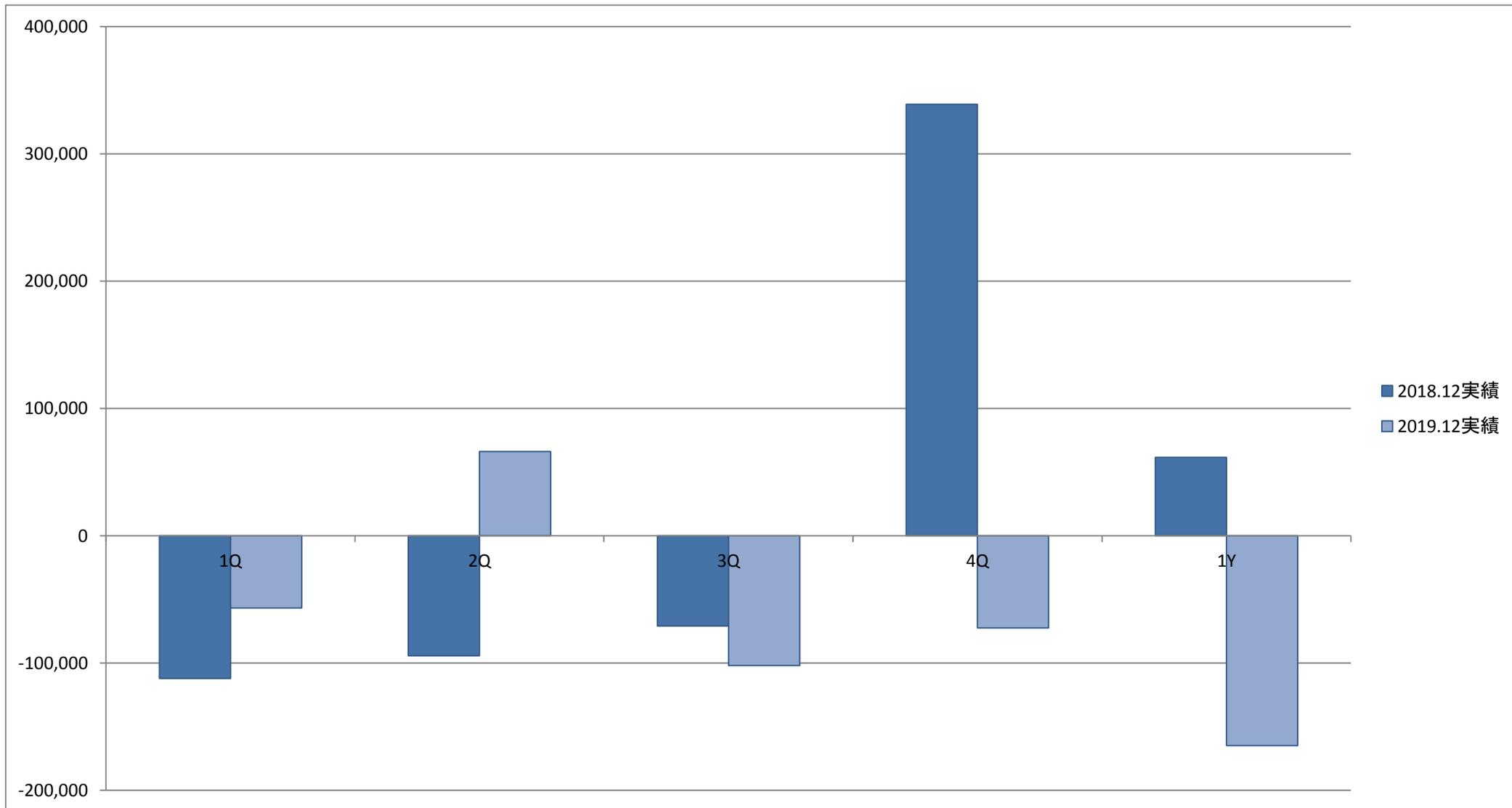
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Y
2018.12実績	147,192	158,451	214,021	695,476	1,215,141
2019.12実績	214,472	364,690	236,638	348,218	1,164,019



# 連結営業利益推移Q比（千円）

売上と同様の動き  
前期61百万黒字→164百万赤字

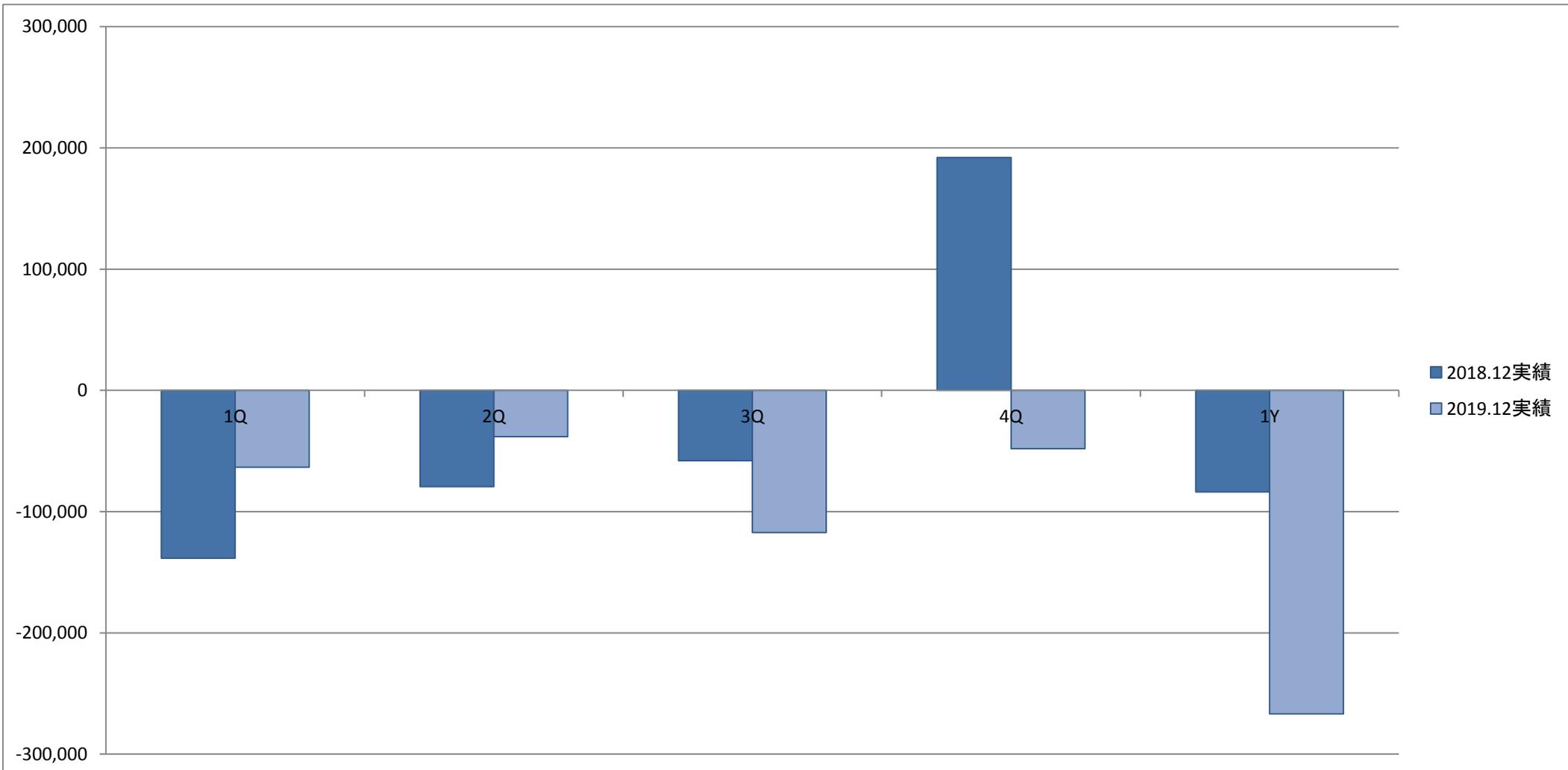
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Y
2018.12実績	-112,147	-94,276	-70,960	338,939	61,556
2019.12実績	-56,704	66,209	-101,947	-72,434	-164,877



# 連結経常利益推移Q比（千円）

	1Q	2Q	3Q	4Q	1Y
2018.12実績	-138,388	-79,462	-57,919	192,000	-83,770
2019.12実績	-63,314	-38,187	-117,233	-48,019	-266,754

主に業務提携先への貸付金に対する貸倒引当金66百万円、子会社貸付金等にかかる為替差損32百万円を営業外費用に計上。



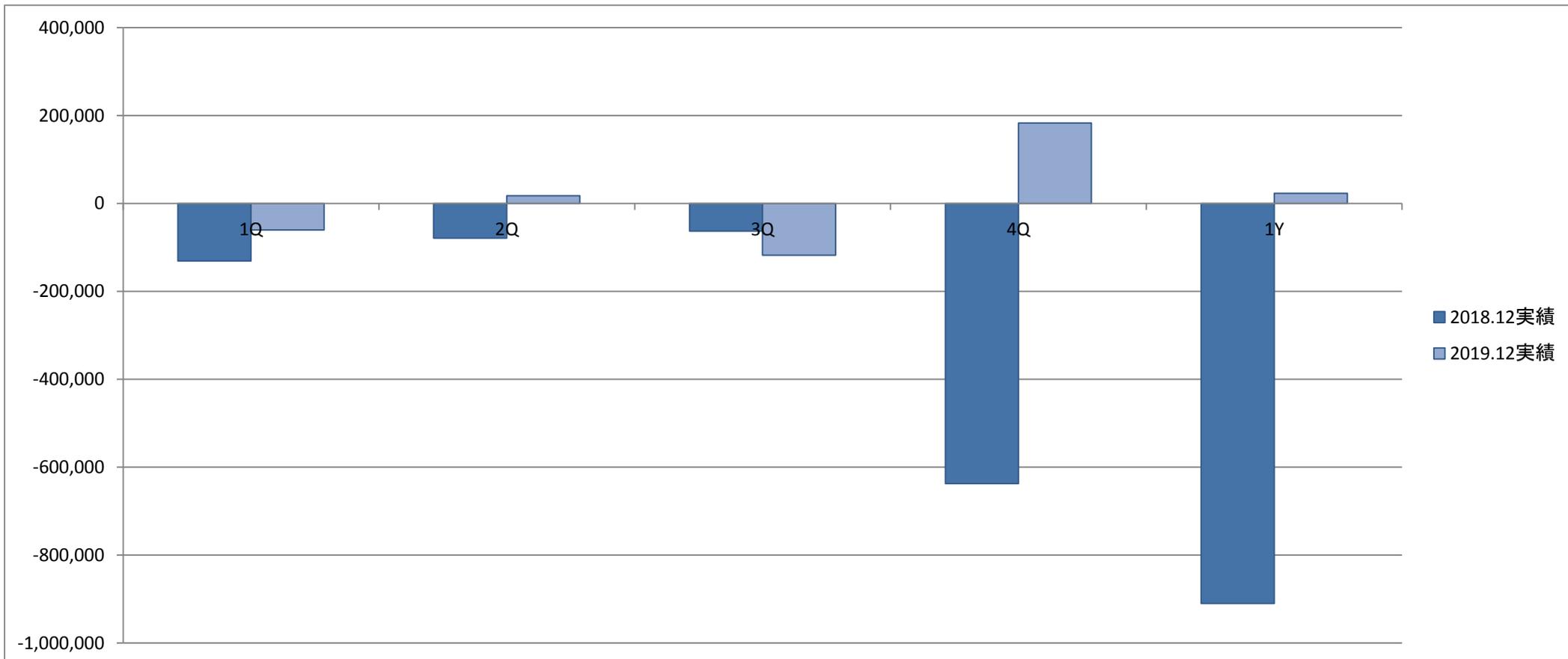
# 連結当期純利益推移Q比（千円）

	1Q	2Q	3Q	4Q	1Y
2018.12実績	-130,832	-78,649	-63,066	-637,274	-909,821
2019.12実績	-60,242	17,807	-117,587	183,202	23,181

特別利益300百万の影響により、23百万の黒字

前期9.0億赤字→0.23億黒字

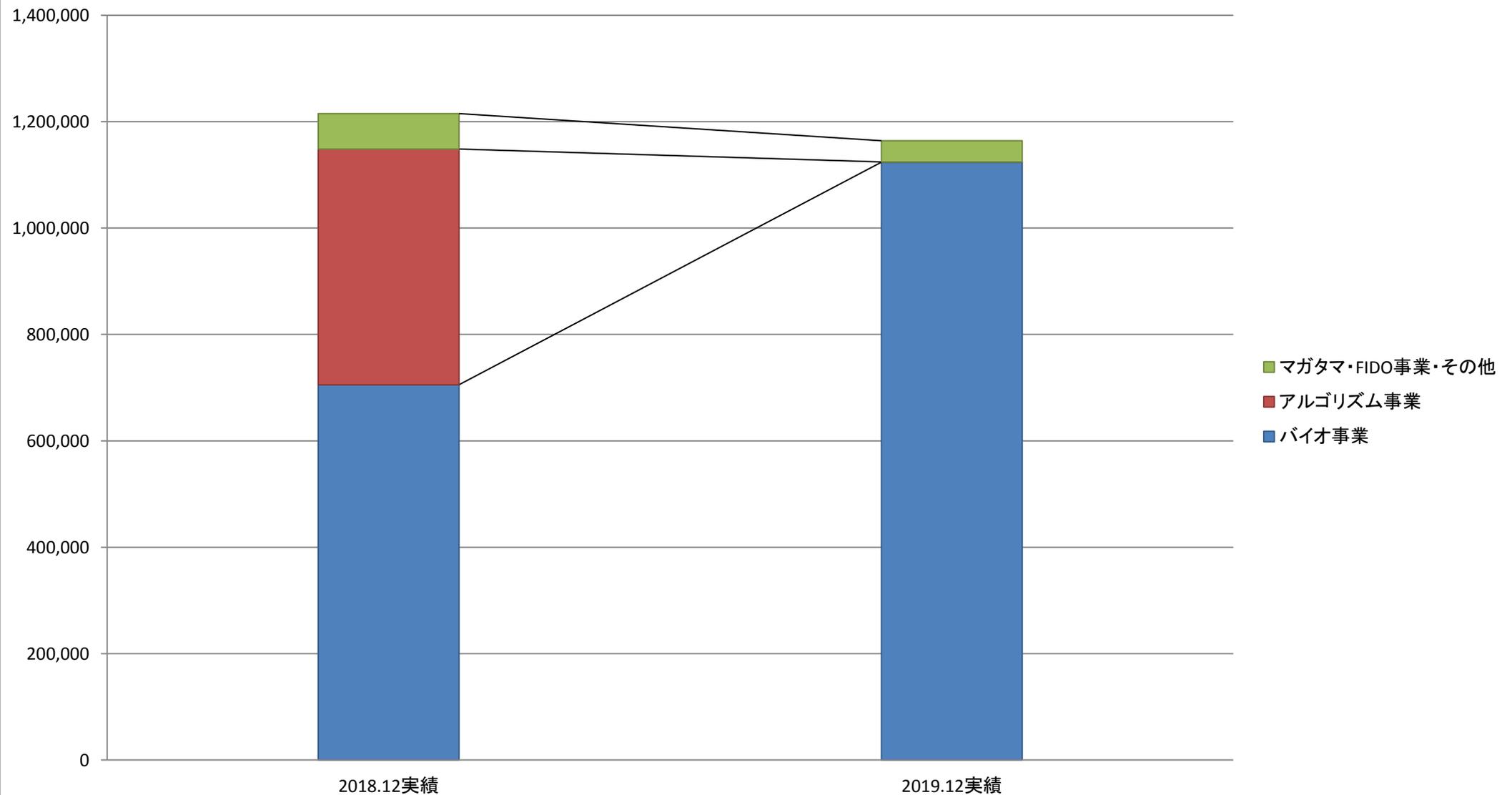
- ・ 投資有価証券売却益240百万
- ・ 新株予約権戻入益60百万



# 通期連結売上構成 単位：千円

バイオ事業については計画通りに堅調、アルゴリズム事業は次期に持ち越し、マガタマ・FIDO事業は微減

売上構成	2018.12実績	2019.12実績
バイオ事業	705,573	1,123,797
アルゴリズム事業	442,949	454
マガタマ・FIDO事業・その他	66,619	39,769
合計	1,215,141	1,164,020



# 連結貸借対照表前年比 単位：千円

財務状態

流動資産14.18億→15.63億

流動比643%→499%

	2018.12実績	2019.12実績		2018.12実績	2019.12実績
流動資産	1,418,808	1,563,872	流動負債	220,427	312,962
固定資産	396,775	434,603	固定負債	112,150	102,432
有形固定資産	276,896	277,438	負債合計	332,577	415,394
無形固定資産	29,391	24,782			
投資その他	90,487	132,382	純資産合計	1,483,006	1,583,081
資産合計	1,815,584	1,998,476	負債・純資産合計	1,815,584	1,998,476

# 連結キャッシュフロー前年比 単位：千円

	2018.12実績	2019.12実績
営業活動によるC F	-67,429	-121,991
投資活動によるC F	-477,002	-358,814
財務活動によるC F	798,050	123,556
現金及び現金同等物の期末残高	581,708	224,061

# 2020年12月期～ 連結業績見込

## 業績概要

- ・ 売上 : 16.6億 (前年同期比42.6%増、前年同期11.6億)
- ・ 営業利益 : 3.3億 (前年△1.64億)
- ・ 経常利益 : 3.5億 (前年同期△2.66億)
- ・ 当期純利益 : 3.6億 (前年同期0.2億)

## 概要

バイオ事業については、セキュリティ対策として自治体をはじめとした官公庁ならびに民間企業での採用の増加が見込まれること及び文教市場におけるGIGAスクールにおいて一人一台のデバイス普及に向けた補助金が確定的で、文部科学省セキュリティガイドラインに二要素認証が明記されていることから、市場環境は拡大基調にあるものと認識しております。それらに対し数年来構築してきた代理店網を活用しさらに売上増加を推進してまいります。

マガタマ・FIDO事業については、iOS版SafariのリリースによりFIDOの普及は待ったなしの状況になるとともに、当連結会計年度に検証導入したユーザーがサービスインに移行することが予想され売上に大きく寄与すること、さらに新しく契約締結した販売パートナーが既に提案活動をしており受注期に入ることから、売上急増を見込んでおります。

アルゴリズム事業については、既に引かれているスケジュールを外すことなく、最終的なクロージングに向け売上拡大に貢献して参ります。

ブロックチェーン関連事業については、本人確認手段としての生体認証の利用増加にあわせてアライアンス強化による当社事業との融合ならびに既存販売網の活用を行って参ります。

# DDSの認証ソリューションの変遷



# バイオ事業ラインナップ

認証システム「Themis」、「EVE」シリーズと、自社開発の指紋認証ユニット「UBF」シリーズを提供

## 認証ソリューション (ソフトウェア)



- 指紋、顔、静脈、ICカード、OTPなどの多要素認証基盤
- クラウド本人認証「マガタマサービス」と連携



- 指紋、顔、静脈、ICカード、OTPなどの多要素認証基盤
- Active Directoryと完全連携



- 指紋認証をメインとした二要素認証基盤
- RDBMSによるユーザー管理



- サーバー不要で1名から利用可能なスタンドアロン製品
- 指紋認証とパスワードの二要素認証



- お客様が開発されたシステムへハイブリッド指紋認証を組み込むことができる  
ソフトウェア・ディベロップメント・キット

## 指紋認証ユニット (ハードウェア)



**UBF-neo**  
据え置きPCの利用に最適なケーブルタイプユニット



**UBF-Tri**  
モバイルPCに直差しで利用可能な携帯に優れたユニット



**UBF-Hello**  
SurfaceにジャストフィットするSurface専用ユニット



**UBF-micro**  
2 in 1 PCに最適化された micro USB版指紋センサユニット



**UBF-cube**  
薄型ノートPCに最適化されたフルサイズUSB版指紋センサユニット



**UBF-Pocket**  
Windowsタブレットに最適なBluetooth接続指紋センサユニット



**UBF-Touch**  
ノートPCに最適なタッチ型指紋センサユニット

# バイオ事業 利用シーン

すべてのログインが

DDSの認証基盤で

パスワード入力不要に！



Windowsログオン

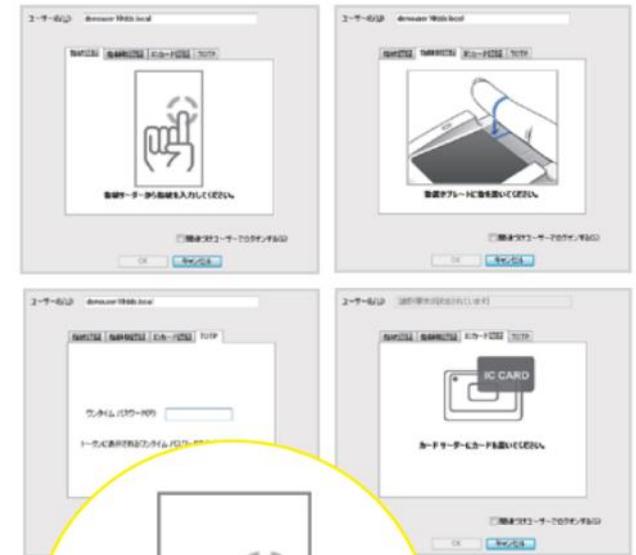


Webアプリケーション



VBやVCで作成された  
独自C/Sアプリ

ご使用中のPCに  
導入するだけ！



- EVE MAは、**指紋認証**の他に、**指静脈認証**・**顔認証**・**ICカード認証**・**ワンタイムパスワード認証**等に対応しており、指紋認証のみの利用に加え、複数の認証要素を組合せた**二要素認証**でセキュリティレベルを上げることができます。
- EVE FA/EVE MA は使い慣れた **Active Directory** と連携し、認証システムを管理・運用することができます。

# マガタマ・FIDO事業ラインアップ

次世代オンライン認証規格「FIDO」に準拠した認証基盤ソリューション  
「マガタマプラットフォーム」と、FIDO認証対応のソリューション、サービスを展開

## 認証ソリューション

## 製品特徴

クラウド本人認証  
マガタマプラットフォーム  
(B2B2C)

- お客様の会員サービスシステム等にFIDO認証機能を組込むための基盤パッケージ
- FIDO APサーバー、クライアントSDK (FIDO SDK)、構築支援ツール一式をソフトウェアで提供
- お客様環境へ構築するパッケージと、クラウドでFIDO認証機能を提供するサービスを用意

クラウド本人認証  
マガタマサービス  
(B2B2B)

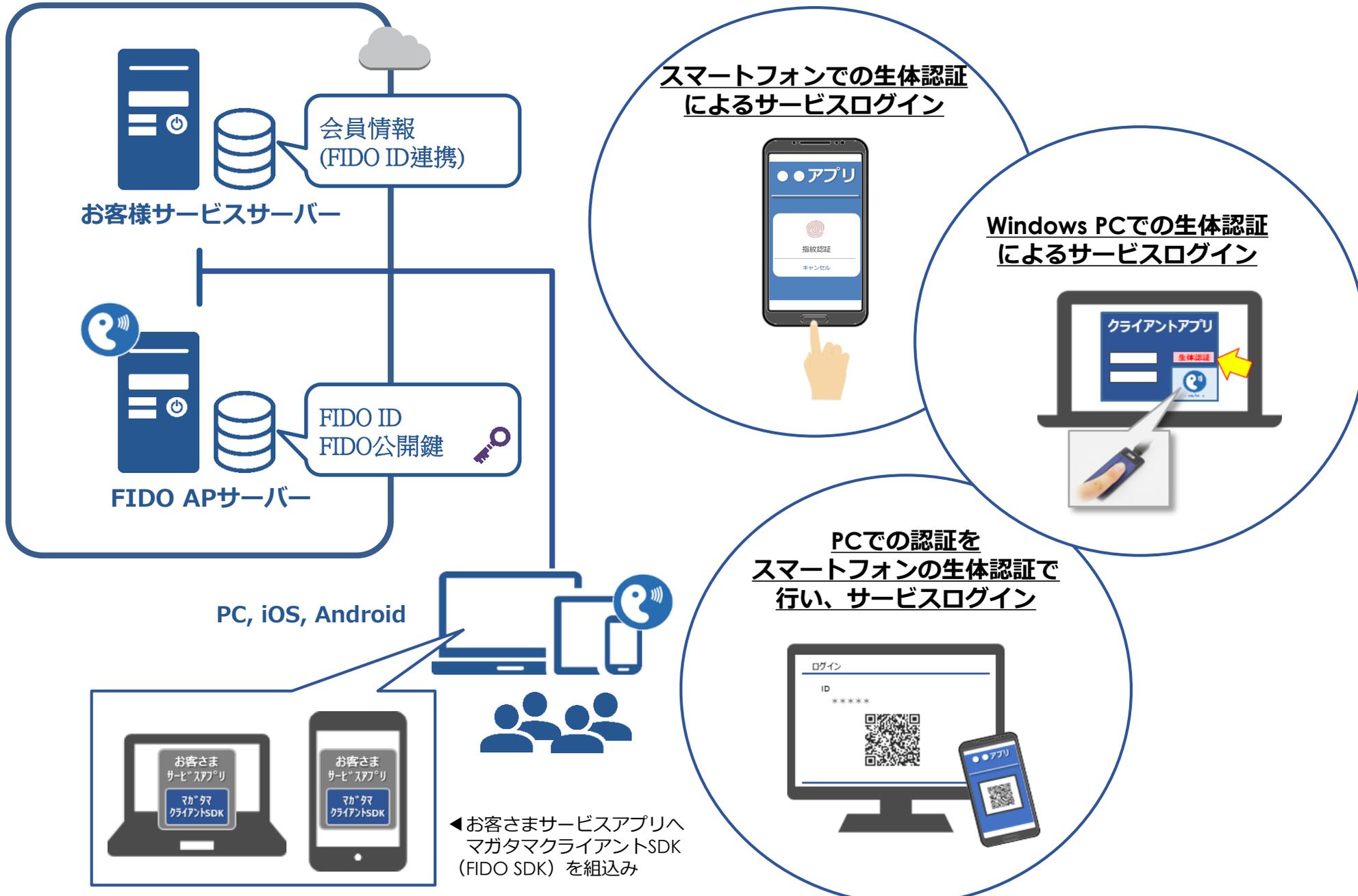
- フェデレーションによるウェブサービスのFIDO認証提供サービス
- ユーザー管理、FIDO認証、SAML連携機能を提供
- クラウド環境でのサービス提供

どこでも本人確認  
(B2B2C)

- オンライン環境での本人確認機能（お客様環境に合わせてカスタマイズ）
- FIDO認証情報と本人確認情報を紐づけた本人認証データの作成が可能

# マガタマ・FIDO事業

# システム構成と利用シーン



◀お客様サービスアプリへ  
マガタマクライアントSDK  
(FIDO SDK) を組み込み

**本資料は、当社の内容をご理解いただくための資料であり投資の勧誘を目的とするものでは、ございません。**

**本資料内の業績予想及び将来展望に関しては、現時点で当社が判断したものであり今後の様々な経営環境の変化により実際の業績及び結果が異なる場合がある旨をご了承願います。**